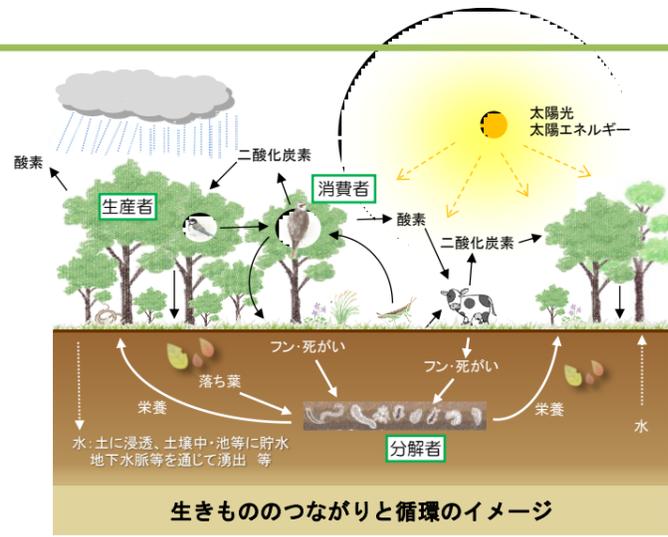


生物多様性とは

動物、植物、その他全ての生きものは一つ一つに豊かな個性があり、互いに支え合って生きています。

例えば、花をつける植物は昆虫に花粉を運んでもらうかわりに蜜を与え、昆虫の集めた蜜をほ乳類が食べ、そのフンを土の中の微生物が分解し、それを栄養にしてまた植物が育つ・・・というような支え合いは、広く知られています。

このように「様々な生きものがつながっていること」を、**生物多様性**と言います。



生物多様性の恵み

供給サービス

米、野菜、肉をはじめ、家や衣類、医薬品の材料等、人間生活に重要なものを供給するサービス

調整サービス

木々による暑さや風の緩和、洪水防止、水の浄化等、環境をコントロールするサービス

文化的サービス

美しい景観、食文化、レクリエーションの機会等、文化的・精神的なサービス

基盤サービス

植物のつくる酸素、動植物の体を通して行われる水循環、微生物が死骸や落ち葉等を分解してつくる豊かな土壌等、命を支える基本的なサービス



市内産野菜

豊かな生態系サービスは、おいしい野菜を供給してくれます。

中央通りの街路樹

車通りの多い道ですが、木々が排気ガス中の二酸化炭素を吸収し、騒音を和らげてくれます。



武蔵野地粉うどん

武蔵野台地の小麦を使用した名物グルメです。

落ち葉の堆肥化

収集した落ち葉を市内約 50 ヶ所で堆肥化し、大地に還元しています。



生物多様性の危機

- ① 第一の危機 乱獲や開発等、人間活動の負の影響による危機
- ② 第二の危機 農業従事者の減少等、自然に対する人間の働きかけの縮小による危機
- ③ 第三の危機 人間により持ち込まれたものによる危機
- ④ 第四の危機 地球温暖化等、地球環境の変化による危機



生物多様性の危機 (イラスト提供：外務省)

※「外来生物法」では、国内外を問わず地域外から持ち込まれた生物を「外来種」、うち国外から持ち込まれたものを「外来生物」と呼んでいます。

「外来種」とは？

人間が他の地域（国内外を問いません）から持ち込んだ生きものを「外来種」といいます。

「外来種」は、地域本来の生態系を壊してしまうおそれがあるため、注意し、必要に応じて対策しなければなりません。

井の頭池等で確認されている **ミシシippiacamigama** は、ペットとして飼われていたものが捨てられたもので、国により「緊急対策外来種」に指定されています。

市内で見られる代表的な外来種

(写真提供：東京都環境局)



ミシシippiacamigama



トウネズミモチ



ハクビシン

武蔵野市の生物多様性のポイント

強み・機会として捉えることができる点

◆ 人間と自然が共生していること

公園、上水、街路樹、住宅の庭木等が人間の生活と適切に融合しています。

◆ 生態系ネットワークを構築するための原型があること

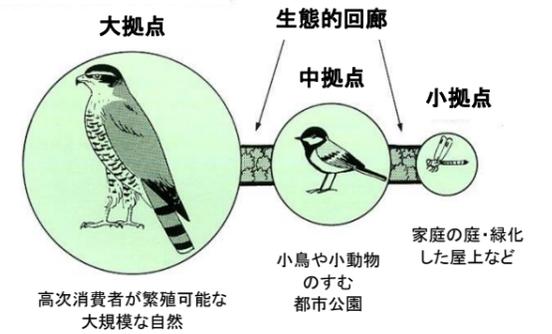
公園や大学の緑等を拠点に、上水、街路樹等を回廊とする生態系ネットワークの原型があります。

◆ 自然環境の保全について市民等の活力があること

緑や水が市民活力により保全されてきた歴史があり、現在も多く市民等による活発な活動があります。

◆ 生物多様性の文化・精神的サービスが充実していること

自然に関する歴史、自然の中でのレジャー等の機会、自然に関連した教育・芸術施設があります。



生態系ネットワークのイメージ

(出典：「ビオトープネットワーク」(公財) 日本生態系協会)



(写真提供：東京都建設局)

60年ぶりに発見された『イノカシラフラスコモ』

緑色藻類の仲間です。昭和 32 年 (1957 年) に井の頭池と神田川上流で発見され、新種とされましたが、その後、発見地においては絶

滅したと考えられていました。しかし、平成 28 年 (2016 年) の井の頭池のかいぼりで、約 60 年ぶりに発見されました。



弱み・課題として捉えなければならない点

◆ 自然環境が量的に減少・質的に低下していること

市街地化等により自然環境は量的に減少、質的に低下しています。

◆ 自然環境の種類や存在する地域に偏りがあること

樹林が多く、草地や池沼が少ないこと、駅周辺に自然環境が少ないこと等、自然環境の偏りがあります。

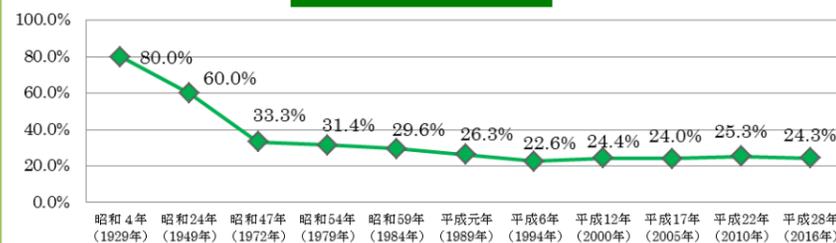
◆ 侵略的な外来種が地域本来の生物多様性を脅かしていること

市内で侵略的な外来種が多数確認されています。特にペットだった生きものが目立つのは、都市的特徴です。

◆ 他自治体や都、市外各教育機関との連携が不可欠であること

井の頭公園、小金井公園、玉川上水、千川上水、教育機関の中の緑等、市境にまたがっている、もしくは市境の他自治体側に位置する、まとまった緑が多くあります。

市の緑被率の推移



文学・美術にみる武蔵野

武蔵野の風景の移り変わりは、美術や文学にも表れています。

『武蔵野図屏風』 (江戸時代)



江戸時代によく描かれたモチーフで、江戸時代より前の武蔵野の広大な原野を表わしています。(写真提供：東京国立博物館)

国木田独歩『武蔵野』 (明治 31 (1898) 年)

かやはら
「昔の武蔵野は萱原のはてなき光景をもって絶類の美を鳴らしていたようにいい伝えてあるが、今の武蔵野は林である。林はじつに今の武蔵野の特色といってもよい。」

生物多様性の保全に向けて

生物多様性の保全のため、武蔵野市は3つの目指すまちの姿を掲げ、その実現に向けて立てた3つの方針に基づき、各施策を推進します。
また、わたしたち一人ひとりができる取り組みの例をご紹介します。

人間と自然が調和する
武蔵野市らしい生物多様性を
守り、育てるまち

方針Ⅰ まもる・そだてる

- 生物多様性施策の推進
- 気候変動対策の推進
- 緑化の推進
- 水辺環境の整備及び水循環の推進
- 市外における森林整備等の推進
- 農地保全の推進

たとえば… 身の周りを緑化する

家や職場等、身近なところを生物多様性に配慮して緑化することにより、人間が憩いの場を得るとともに、地域の生きものすみかを増やすことができます。



武蔵野市の生物多様性の多面性を
理解し、発信するまち

方針Ⅱ わかる・つたえる

- 自然環境に関する情報発信の推進
- 自然体験事業の推進
- 自然環境教育の推進

たとえば… 自然に親しむ

公園や上水沿い等を散歩するだけでも、武蔵野市の生きものを感じられます。自然への親しみにより生物多様性に関心を持つことが、取り組みの第一歩になります。



生物多様性について多様な主体が
自発的に行動し、積極的に連携するまち

方針Ⅲ うごく・つながる

- 市民・事業者の活力を借りた生物多様性の保全の推進
- 自然環境に関するリーダーシップの育成の推進
- 近隣自治体や東京都、その他市外関係者との連携の推進

たとえば… 生物多様性に配慮した消費行動をする

生物多様性に関するエコラベルのついた商品や、農薬を抑えた・使わない農産物を選ぶことは、生物多様性に貢献します。また、地域の農産物を食べる「地産地消」は、食から地域の生物多様性を考えるきっかけになるとともに、農産物をつくる農地の保全を消費行動によって支えます。



武蔵野市生物多様性基本方針 〈概要版〉

本方針の位置づけ

本方針は、本市の生物多様性に関する施策の大きな方向性を示すもので、生物多様性基本法の定める「生物多様性地域戦略」として位置づけるとともに、本市の環境分野のマスタープランである「武蔵野市環境基本計画」の下位計画として位置づけられます。また、「武蔵野市緑の基本計画」等の関連計画とも整合を図りながら推進します。

